

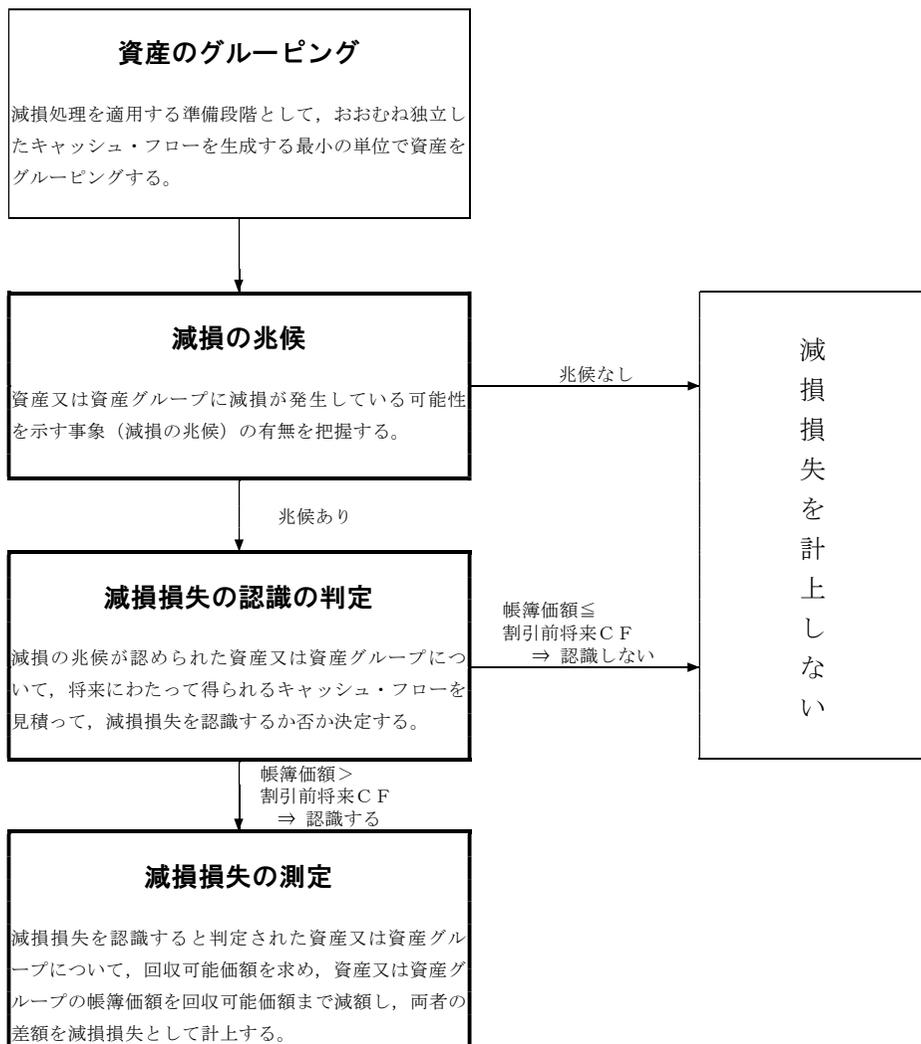
## 第1節 総論

### 1. 意義

**固定資産の減損**とは、資産の収益性の低下により投資額の回収が見込めなくなった状態であり、減損処理とは、そのような場合に、一定の条件の下で回収可能性を反映させるように帳簿価額を減額する会計処理である。

### 2. 減損処理のプロセス

減損損失は以下のプロセスを経て計上する。



### 3. 資産のグルーピング

複数の資産が一体となってキャッシュ・フローを生み出している場合（例えば営業所における土地、建物、備品など）には、資産をグルーピングして減損処理する。この場合、資産のグルーピングは、他の資産又は資産グループのキャッシュ・フローから概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位で行う。

### 4. 減損の兆候

資産又は資産グループに減損が生じている可能性を示す事象を**減損の兆候**という。減損の兆候がある場合には、資産又は資産グループについて、減損損失を認識するかどうかの判定を行う。これに対して、減損の兆候がない場合には、減損損失は計上しない。

### 5. 減損損失の認識の判定

減損の兆候がある資産又は資産グループについては、減損損失を認識するかどうかの判定を行う。具体的には、将来その資産又は資産グループから得られる金額（割引前将来キャッシュ・フローの総額）と帳簿価額を比較し、割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回る場合には、減損の存在が相当程度確実であることから、減損損失を認識する。

帳簿価額 > 割引前将来キャッシュ・フロー ⇒ 減損損失を認識する

帳簿価額 ≤ 割引前将来キャッシュ・フロー ⇒ 減損損失を認識しない

## 6. 減損損失の測定

### (1) 会計処理

固定資産について減損処理を行う場合は、固定資産の帳簿価額を**回収可能価額**まで減額し、当該減少額を**減損損失**として当期の損失とする。

(減 損 損 失)	×××	(固 定 資 産)	×××
-----------	-----	-----------	-----

※ 帳簿価額－回収可能価額

### (2) 回収可能価額

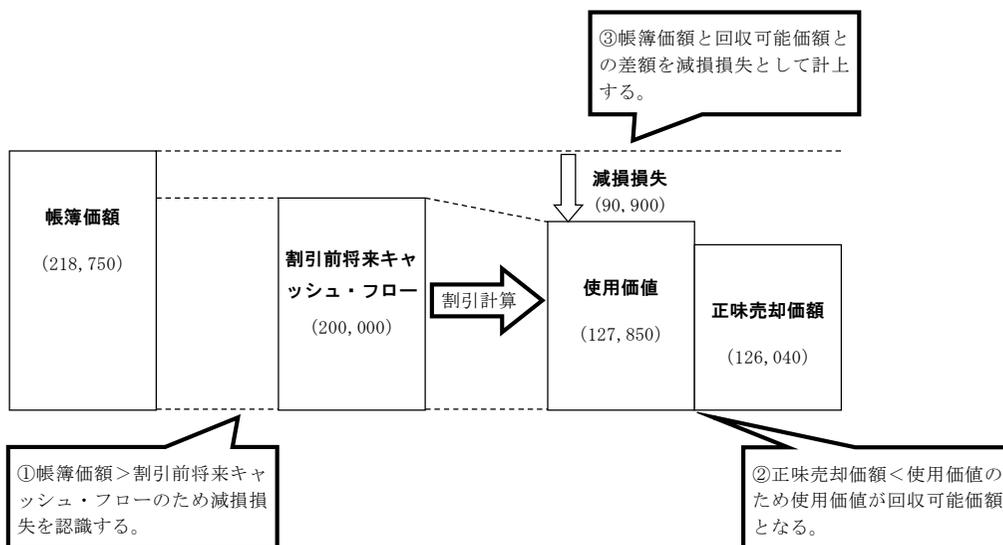
**回収可能価額**：資産又は資産グループの**正味売却価額**と**使用価値**のいずれか高い方の金額

**正味売却価額**：資産又は資産グループの時価から処分費用見込額を控除して算定される金額

**使用価値**：資産又は資産グループの継続的使用と使用後の処分によって生じると見込まれる将来キャッシュ・フローの現在価値（使用価値の算定に際して用いられる割引率は、将来キャッシュ・フローが税引前の数値であることに対応して、割引率も税引前の数値を用いる）

企業は資産又は資産グループに対する投資を売却と使用のいずれかの手段によって回収する。売却による回収額は正味売却価額、使用による回収額は使用価値となるが、企業は通常、高い方の金額で回収することを選択するはずである。このため、回収可能価額は正味売却価額と使用価値のうちいずれか高い方の金額とされる。

#### 減損処理の例



## 【例題8-1】減損損失の測定

当社が保有するA資産（取得原価：500,000千円）について、当期末に減損の兆候が見られる。以下の資料に基づいて、当該A資産について損益計算書に計上される減損損失の金額を求めなさい。

1. 経済的耐用年数は40年であり、当期末までに25年が経過している。当期末まで、残存価額を取得原価の10%とする定額法により減価償却を行っている。
2. A資産の賃料収入等として、残存耐用年数15年にわたって、毎年10,000千円のキャッシュ・フローが生じると見込まれた。
3. 残存耐用年数到来時における処分収入は50,000千円と見込まれた。
4. 当期末のA資産の時価は130,000千円であり、処分費用見込額は3,960千円であった。
5. 使用価値を算定する際の割引率は5%とする。期間15年の現価係数は0.481であり、年金現価係数は10.380である。

【解答】（単位：千円）

## 1. 減損損失の認識の判定

## (1) 帳簿価額

$$\textcircled{1} \text{ 減価償却累計額} : 500,000 \times 0.9 \times \frac{25\text{年}}{40\text{年}} = 281,250$$

$$\textcircled{2} \text{ 帳簿価額} : 500,000 - 281,250 = 218,750$$

## (2) 割引前将来キャッシュ・フロー

$$\textcircled{1} \text{ 每期生じるキャッシュ・フロー} : 10,000 \times 15\text{年} = 150,000$$

$$\textcircled{2} \text{ 処分収入} : 50,000$$

$$\textcircled{3} \text{ 合計} : 150,000 + 50,000 = 200,000$$

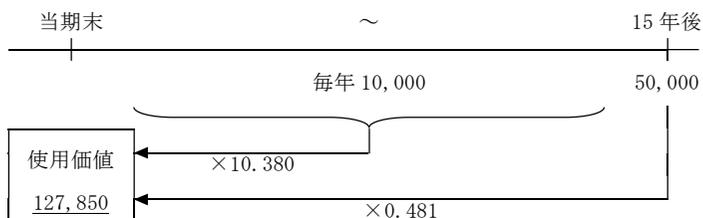
## (3) 判定

帳簿価額：218,750 > 割引前将来キャッシュ・フロー：200,000 のため、減損損失を認識する。

## 2. 減損損失の測定

## (1) 回収可能価額

$$\textcircled{1} \text{ 使用価値} : 10,000 \times 10.380 + 50,000 \times 0.481 = 127,850$$



$$\textcircled{2} \text{ 正味売却価額} : 130,000 - 3,960 = 126,040$$

$$\textcircled{3} \text{ 使用価値} : 127,850 > \text{正味売却価額} : 126,040 \text{ より、回収可能価額は } 127,850$$

## (2) 減損損失の金額

$$218,750 - 127,850 = 90,900$$